

11月9日（木）森

この写真はアオバズクあおばずくといって、フクロウふくろうの一種です。「ホーホー ホーホー」と鳴きます。きっと皆さんも一度は聞いたことがあると思いますよ。このアオバズクは、夏の夜、木々の茂みの中で鳴き、青葉のころにやってきて子育てをします。そして秋が深まると、東南アジアとうなんあじあに帰っていきます。大きな木の桐きりに巣を作るので、林はやしや森もりがあれば、そこで見ることができます。ガやセミをつかまえて食べるようです。



このアオバズク、絶滅ぜつめつの心配しんぱいをされています。絶滅とは、一匹もいなくなってしまうことです。今、全国でどんどん減っているということです。理由は、森が減っているからです。森が、ビルなどの建物たてもものにどんどん変わっていき、巣を作れず、住みにくくなっているそうです。

アオバズクが減ると、喜ぶのは、ガがです。森が少ない場所では、ガが増えてきます。アオバズクが少ないからです。

このように、自然しぜんが減へってくると、生き物の数かずもどんどん変わっていくのです。

村越 新